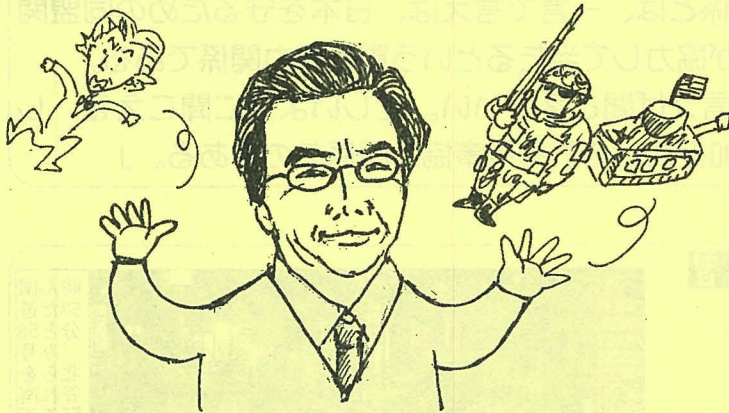


# さらば米軍基地！

～とめよう戦争と沖縄・新基地建設～



日時 1月15日(土)  
13時30分～  
場所 仙台市戦災復興記念館  
地下展示ホール  
(地下鉄広瀬通駅下車、西へ徒歩10分)  
講演 天木直人さん  
(外交評論家)  
資料代 500円  
※集会後、一番町をデモ行進します

## 《講師プロフィール》

### 天木直人さん

1947年、山口県生まれ。69年、京都大学法学部中退、上級職として外務省入省。2001年2月から03年8月、駐レバノン日本国特命全権大使。03年4月、イラク戦争に反対する公電を送り小泉首相の対米追従外交を批判し、9月、事実上の解雇処分。以後、外交評論家として活躍中。

著書に、ベストセラーとなった『さらば外務省！』（講談社）のほか、『さらば小泉純一郎！』（講談社）などがある。

11月23日に起きた延坪島（ヨンピョンド）砲撃戦により、アメリカによる朝鮮戦争の危機が迫っています。米韓合同演習、日米合同演習は実戦そのものです。

この過程で、民主党・菅政権は沖縄・辺野古新基地建設を強行しようとしています。自民党政権ができなかったことをやろうとしているのです。

私たちは、今ここで、「さらば、日米安保条約」「さらば、米軍基地」を明確なテーマとして立ち上がらなければなりません。

イラク戦争に反対して小泉政権に三行半をたたきつけた天木直人さんのお話をお聞きして、戦争のない社会の実現のために何をすべきか、共に考えましょう。



とめよう戦争への道！百万人署名運動・宮城県連絡会  
仙台市青葉区国分町3-7-1 仙台市職労気付  
TEL 022(261)4067  
E-mail myg-100man@kha.biglobe.ne.jp

## 「さらば日米同盟！」 (天木直人さん) より

「日米安保条約は、戦後の冷戦構造の中で、極東における日本の安全保障を米国に委ねるというものであった。

結果的にはその選択は正しかった。歴史がそれを証明している。しかし、その日米安保条約は冷戦の終結とともに役割を終えた。

冷戦終結後しばらくは、まだ、日米安保条約の効用は残っていたかもしれないが、冷戦終結後二十年以上たって、もはや国際情勢は変貌した。日米安保条約は完全に過去のものとなった。」

「米国が目指すそのような日米同盟関係とは、一言で言えば、日本を守るための同盟関係を飛び越え、世界の平和に日米両国が協力して当たるといふ軍事協力関係である。

『世界の平和に貢献する日米関係』と言えは聞こえがいい。正しいように聞こえる。しかしその実態は、米国の戦争に日本が加担させられる軍事協力関係なのである。」

### 軍事一色の島「異様」日米共同演習 住民、基地強化に憤り

＜沖縄タイムス 12月4日付WEB記事＞

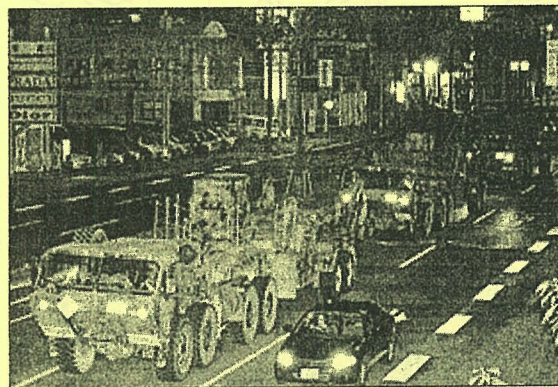
日本の周辺空海域で3日始まった、自衛隊と米軍による大規模な共同演習。県内の米軍施設などでも日米の軍用機や艦船が待機し、物々しい動きを見せた。地域住民からは「異様な光景だ」「軍事強化は許せない」などの不安や怒りの声が上がった。

米海軍と海上自衛隊の艦船20隻以上が姿を現したうるま市勝連平敷屋の米海軍ホワイトビーチ。ビーチを見下ろせる高台には、市内外の人びとがおびただしい数の艦船を見つめた。

散歩中に気付き「NO MORE WAR」などと書かれた看板を持参した前田テル子さん(58)は「沖縄は陸海空が軍に埋め尽くされているという現実を見せつけられた。紛争が起きると海は沖縄のものではなくなるのか」と憤る。うるま市の男性(55)は「(騒音など)すぐに影響はないが、さすがにこれだけの船が並ぶと異様で恐ろしい」と語った。

宜野湾市の米軍普天間飛行場には、米陸軍の地对空誘導弾パトリオット(PAC3)部隊が一時配備された。これを受け同市はこの日、部隊の配備や演習の即時中止を求める抗議・要請文を日米の関係機関に送付した。

市民団体「あらゆる基地の建設・強化に反対する



国道58号を南下するパトリオットを積んだ53分、北谷町謝米軍車両2日午後を積

ネットワーク」も、日米両政府に演習の中止や先島諸島への自衛隊配備計画の取りやめを求める緊急声明を発表。北朝鮮による延坪島(ヨンピョンド)砲撃や韓国の哨戒艦沈没事件など東アジア地域での緊張状態にも触れ「沖縄は日米両政府によって、中国、北朝鮮をにらんだ最前線基地として、ますます軍事的強化が図られている」と強く批判した。

一方、金武町のキャンプ・ハンセンでは午前中、金武区の住宅地に近い基地内の訓練施設から射撃訓練に伴うとみられる発砲音が響き渡り、建物の外では時折、銃を手にした兵士たちの姿が見られた。周辺の住民によると、発砲音は午前7時半ごろから4時間ほど断続的に聞こえた。

今年に入り、同様の訓練を3度確認しているという吉田勝廣県議は「建物内で何をしているか分からないが、日米の共同演習の最中で発砲音が聞こえると、住民の不安は一層募る」と話した。